

社団法人 日本醗酵工学会定款 (昭和46年10月28日許可)

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、社団法人日本醗酵工学会という。
(事務所)

第2条 この法人は、事務所を大阪府吹田市大字山田
上大阪大学工学部醗酵工学教室におく。

(支 部)

第3条 この法人は、理事会の議決を経て、必要の地
に支部をおくことができる。

第2章 目的および事業

(目 的)

第4条 この法人は、醗酵工学および生物化学工学に
関する学理およびその応用の研究についての発表お
よび連絡、知識の交換、情報の提供などを行なう場
となることにより、醗酵工学および生物化学工学に
関する研究の進歩普及を図り、もってわが国の学術
の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するために次
の事業を行なう。

1. 学会誌および学術図書の発行
2. 学術講演会およびシンポジウムなどの開催
3. 関連学会等との連絡および協力
4. 研究の奨励および研究業績の表彰
5. その他前条の目的を達成するために必要な事
業

第3章 会 員

(種 別)

第6条 この法人の会員は、次のとおりとする。

1. 正 会 員 この法人の目的に賛同して入会し
た個人
2. 学生会員 この法人の目的に賛同して入会し
た大学生または大学院学生
3. 団体会員 この法人の目的に賛同して入会し
た団体
4. 賛助会員 この法人の事業を援助する個人ま
たは団体
5. 名誉会員 この法人に特に功績のあった者で、

理事会において推薦され、総会の
承認を得た個人

(2) 民法上の社員は正会員とする

(入 会)

第7条 会員になろうとするものは、入会申込書を会
長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。
ただし、名誉会員を推せんされた者は、入会の手続
きを要せず、本人の承諾をもって会員となるものと
する。

(会 費)

第8条 この法人の会費は、次のとおりとする。

1. 正 会 員 年額 4,000円
2. 学生会員 年額 2,500円
3. 団体会員 年額 10,000円
4. 賛助会員 年額 1口2万円 1口以上

(2) 名誉会員は会費を納めることを必要としない。

(3) 会費は前納とし既納の会費は、いかなる場合で
も返還しない。

(資格の喪失)

第9条 会員は、次の理由によってこの資格を喪失す
る。

1. 退会するとき
2. 禁治産もしくは準禁治産または破産の宣告を
うけたとき
3. 死亡し、もしくは失踪宣告を受け、または団
体である会員が解散したとき
4. 除名されたとき

(退 会)

第10条 会員が退会しようとするときは、理由を付し
て退会届を会長に提出しなければならない。

(除 名)

第11条 会員が次の各号の1つに該当するときは、総
会の議決を経て、会長がこれを除名することができ
る。

1. この法人の名誉を傷つけ、またはこの法人の
目的に反する行為があったとき
2. この法人の会員としての義務に違反したとき
3. 会費を1年以上滞納したとき

第4章 役員、評議員、顧問および職員

(役 員)

ii (定款)

第12条 この法人には、次の役員をおく。

1. 理事 15名以上20名以内（うち会長1名、副会長2名以内および常任理事5名以上10名以内）
2. 監事 1名または2名

（役員の選任）

第13条 理事および監事は、総会でこれを選任し、理事は、互選で会長、副会長および常任理事を定める。

（理事の職務）

第14条 会長は、この法人の業務を総理し、この法人を代表する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、または会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名した順序で、その職務を代理し、または行なう。

(3) 常任理事は、会長および副会長を補佐し、理事会の議決に基づき日常の業務に従事し、総会の議決した事項を処理する。

(4) 理事は、理事会を組織して、この定款に定めるもののほか、この法人の総会の権限に属せしめられた事項以外の事項を議決し、執行する。

（監事の職務）

第15条 監事は、この法人の業務および財産に関し、次の各号に規定する業務を行なう。

1. 法人の財産の状況を監査すること。
2. 理事の業務執行の状況を監査すること。
3. 財産の状況または業務の執行について不正の事実を発見したときは、これを理事会および総会または文部大臣に報告すること。
4. 前号の報告をするため必要があるときは、理事会または総会を招集すること。

（評議員）

第16条 この法人には、評議員50名以上60名以内をおく。

(2) 評議員は、別に定める選挙規定にもとづき、正会員の投票により正会員の中から選出するものとする。

（評議員の職務）

第17条 評議員は、評議員会を組織して、この定款に定める事項のほか、理事会の諮問に応じ、会長に対して必要と認める事項について助言する。

（顧問）

第18条 この法人に顧問をおく。

(2) 顧問は理事会の議を経て会長が委嘱する。

（顧問の職務）

第19条 顧問は、会長の諮問に応じ会長に対して必要と認める事項について助言し、また会長の求めに応じ理事会および評議員会に出席して意見をのべることができる。

（役員および評議員の任期）

第20条 役員および評議員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(2) 補欠または増員により選任された役員および評議員の任期は、前任者または現任者の残任期間とする。

(3) 役員および評議員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行なう。

（役員および評議員の解任）

第21条 役員および評議員が次の各号の一に該当するときは、理事会および総会においておのおのの4分の3以上の議決により、会長がこれを解任することができる。

1. 心身の故障のため職務の執行にたえないと認められるとき。
2. 職務上の義務違反その他役員または評議員たるにふさわしくない行為があると認められるとき。

（役員の報酬）

第22条 役員は、有給とすることができる。

(2) 役員の報酬は、理事会の議決を経て会長が定める。

（職員）

第23条 この法人の事務を処理するため、必要な職員をおく。

(2) 職員は、会長が任免する。

(3) 職員は、有給とする。

第5章 会 議

（理事会の招集等）

第24条 理事会は、毎年2回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めたとき、または理事現在数の3分の1以上から会議に付議されるべき事項を示して理事会の招集を請求されたときは、その請求があった日から15日以内に、臨時理事会を招集しなければならない。

(2) 理事会の議長は、会長とする。

（理事会の定足数等）

第25条 理事会は、理事現在数の3分の2以上の者が

出席しなければ議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。

(2) 理事会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決定し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(評議員会の招集等)

第26条 評議員会は毎年1回会長が招集する。ただし、理事会が必要と認めたとき、または、監事から請求があったときまたは評議員現在数の3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求があったときは、その請求があった日から15日以内に、臨時評議員会を招集しなければならない。

(2) 評議員会の議長は、会議のつど評議員の互選で定める。

(評議員会の審議事項)

第27条 評議員会は、この定款に別に定めるもののほか、次の事項を審議する。

1. 事業計画および収支予算についての事項
2. 事業報告および収支決算についての事項
3. 財産目録についての事項
4. その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(評議員会の定足数等)

第28条 評議員会は、評議員現在数の2分の1以上の者が出席しなければ議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。

(2) 評議員会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席評議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(総会の招集)

第29条 通常総会は、5月に会長が招集する。

(2) 臨時総会は、理事会が必要と認めたとき、または監事から請求があったとき、会長が招集する。

(3) 前項のほか、会員現在数の5分の1以上から会議に付議すべき事項を示して総会の招集を請求された場合は、会長は、その請求があった日から20日以内に臨時総会を招集しなければならない。

(4) 総会の招集は、少なくとも10日以前に、その会議に付議すべき事項、日時および場所を記載した書面をもって通知する。

(総会の議長)

第30条 通常総会の議長は、会長とし、臨時総会の議長は、会議のつど正会員の互選で定める。

(総会の議決事項)

第31条 総会は、この定款に別に定めるもののほか、次の事項を議決する。

1. 事業計画および収支予算についての事項
2. 事業報告および収支決算についての事項
3. 財産目録についての事項
4. その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(総会の定足数等)

第32条 総会は、正会員の現在数の5分の1以上の者が出席しなければ、その議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意志表示した者および他の会員を代理人として表決を委任した者は、出席者とみなす。

(2) 総会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、正会員である出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(会員への通知)

第33条 総会の議事の要領および議決した事項は、会員に通知する。

(議事録)

第34条 すべて会議には、議事録を作成し、議長および出席者代表2名以上が署名押印の上、これを保存する。

第6章 資産および会計

(資産の構成)

第35条 この法人の資産は、次の通りとする。

1. 設立当初の財産目録に記載された財産
2. 会費
3. 事業に伴う収入
4. 資産から生ずる収入
5. 寄附金品
6. その他の収入

(資産の種別)

第36条 この法人の資産を分けて、基本財産と運用財産の2種とする。

(2) 基本財産は、次に掲げるものをもって構成する。

1. 設立当初の財産目録中基本財産の部に記載された財産

iv (定款)

2. 基本財産とすることを指定して寄附された財産
3. 理事会で基本財産に繰り入れることを議決した財産

(3) 運用財産は基本財産以外の資産とする。

(資産の管理)

第37条 この法人の基本財産は会長が管理し、基本財産のうち現金は理事会の議決を経て確実な有価証券を購入するほか、確実な信託銀行に信託するか、確実な銀行の定期預金もしくは郵便局の定期預金として、会長が保管する。

(基本財産の処分の制限)

第38条 基本財産は、譲渡し、交換し、担保に供し、または運用財産に繰り入れてはならない。ただし、この法人の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会および評議員会の議決を経て、総会の承認を経、かつ文部大臣の承認を受けて、その一部に限りこれらの処分をすることができる。

(経費の支弁)

第39条 この法人の事業遂行に要する費用は、運用財産をもって支弁する。

(事業計画および収支予算)

第40条 この法人の事業計画およびこれに伴う収支予算は会長が編成し、理事会および総会の議決を経て、毎会計年度開始前に文部大臣に届け出なければならない。事業計画および収支予算を変更しようとする場合も同様とする。

(2) 前項の規定にかかわらず、やむを得ない事情により、同項に規定する総会を開催することができないときは、翌会計年度開始後最初に開催される総会において、これらに係る承認を得なければならない。

(収支決算)

第41条 この法人の収支決算は、会長が作成し、財産目録、事業報告および財産増減事由書ならびに会員の異動状況書とともに、監事の意見をつけ、理事会および総会の承認を受けて、毎会計年度終了後2月以内に文部大臣に報告しなければならない。

(2) この法人の収支決算に剰余金があるときは、理事会の議決および総会の承認を受けて、その一部もしくは全部を基本財産に編入し、または翌年度に繰り越すものとする。

(長期借入金)

第42条 この法人が借入金をしようとするときは、そ

の会計年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、理事会の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けなければならない。

(新たな義務の負担等)

第43条 第38条ただし書および前条の規定に該当する場合ならびに収支予算で定めるものを除くほか、この法人が新たな義務の負担または権利の放棄のうち重要なものを行なおうとするときは、理事会および総会の議決を経なければならない。

(会計年度)

第44条 この法人の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第7章 定款の変更ならびに解散

(定款の変更)

第45条 この定款は、理事会、評議員会および総会においておのおの3分の2以上の議決を経、かつ文部大臣の認可を受けなければ変更することはできない。

(解 散)

第46条 この法人の解散は、理事会、評議員会および総会においておのおの4分の3以上の議決を経、かつ文部大臣の認可を受けなければならない。

(残余財産の処分)

第47条 この法人の解散に伴う残余財産は、理事会、評議員会および総会においておのおの4分の3以上の議決を経、かつ文部大臣の許可を受けて、この法人の目的に類似の目的を有する公益法人に寄附するものとする。

第8章 補 則

(書類および帳簿の備付等)

第48条 この法人の事務所に、次の書類および帳簿を備えなければならない。ただし、他の法令により、これらに代る書類および帳簿を備えたときは、この限りでない。

1. 定 款
2. 社員名簿
3. 役員およびその他の職員の名簿および履歴書
4. 財産目録
5. 資産台帳および負債台帳
6. 収入支出に関する帳簿および証拠書類
7. 理事会、評議員会および総会の議事に関する書類
8. 処務日誌

(定款) v

9. 官公署往復書類

10. その他必要な書類および帳簿

- (2) 前項の書類および帳簿は、永久保存しなければならない。ただし、前項5号の帳簿および書類は10年以上、同項第8号および第9号の書類および帳簿は、1年以上保存しなければならない。

(細 則)

第49条 この定款施行についての細則は、理事会および総会の議決を経て別に定める。

付 則

1. この定款は文部大臣の認可のあった日から施行する。
2. 従来日本醸酵工学会に属した権利義務の一切は、この法人が継承する。

付 則

1. 昭和48年10月28日付就任した役員および評議員の任期は、定款第20条の規定にかかわらず、昭和50年5月31日までとする。

社団法人 日本醸酵工学会細則

第1章 会 員

第1条 この法人の会員とは定款第7条により入会を承認されたものである。

第2条 会員は定款の定める会費1年分を前年度の12月末日までに前納しなければならない。

第3条 団体会員または賛助会員である団体は、その代表者を変更したときは直ちにその旨を会長に届けなければならない。

第4条 正会員、名誉会員および学生会員は講演会において報告を行ない、または投稿規定にしたがって報文を学会誌に投稿することができる。

第5条 会員は本会の行なう各種の行事に参加することができる。

第6条 会費の滞納1年以上におよぶ会員は会員の資格を喪失する。

第2章 役員および評議員選挙

第7条 役員および評議員は正会員の投票によって決める。

(2) 投票は無記名投票により常任理事立ちあいのもとに開票するものとする。

第8条 役員および評議員候補者推薦のため推薦委員会を置く。

(2) 評議員候補者は理事会内に設けられた10名以上から成る推薦委員会の推薦によるものとする。

(3) 会長、副会長、監事および理事候補者は評議員会内に設けられた10名以上から成る推薦委員会の推薦によるものとする。

第3章 会務の分担

第9条 次の各会務を分担するためそれぞれ理事若干名を置く。

1. 庶 務
2. 会 計
3. 編 集
4. 企 画

第10条 庶務担当理事者は次の会務を分担する。

1. 会員に関する事項
2. 会議に関する事項
3. 議案および報告に関する事項

4. 会誌その他の刊行物の配布

5. 外部との折衝

6. 文書の発受および保管

7. 登記に関する事項

8. 表彰に関する事項

9. 職員の福利、厚生に関する事項

10. 記録の整理および保管

11. その他庶務に関する事項

第11条 会計担当理事は次の会務を分担する。

1. 会費および購読料の請求および収納

2. 現金の出納および保管

3. 予算および決算に関する事項

4. 会計帳簿および証書類の整理および保管

5. 物品購入および売却

6. その他会計に関する事項

第12条 編集担当理事は次の会務を分担する。

1. 編集委員会に関する事項

2. 原稿の整理および保管

3. 会誌および図書の刊行

4. その他編集に関する事項

第13条 企画担当理事は次の会務を分担する。

1. 新規学会活動に関する事項

2. 学術集会に関する事項

3. 国際機関たとえば国際生物工学機構との協力において必要と認められる事項

4. 事業その他の企画に関する事項

第4章 委員会および委員

第14条 この法人に編集委員25名以内、江田賞授賞候補者選考委員5名以上、斎藤賞授賞候補者選考委員5名以上および学会賞授賞候補者選考委員5名以上を置く。

(2) 任期はそれぞれ2年とする。ただし再任を妨げない。

第15条 編集委員は理事会の議を経て会長が委嘱する。

第16条 編集委員は編集理事とともに編集委員会を組織し、学会誌の編集方針を審議し、投稿原稿の審査を行なう。

第17条 編集委員は編集に関する実務処理のため編集幹事者若干名に委嘱する。編集幹事は委員会の決定方針に従って投稿原稿の処理、その他編集に関する

事項の処理を行なう。

第18条 江田賞授賞候補者選考委員は授賞候補者選考委員会を組織し、江田賞授賞規定に従って、受賞者の選考を行なう。

第19条 江田賞授賞候補者選考委員は、理事会の議を経て会長が委嘱する。

第20条 斎藤賞授賞候補者選考委員は授賞候補者選考委員会を組織し、斎藤賞授賞規定に従って、受賞者の選考を行なう。

第21条 斎藤賞授賞候補者選考委員は理事会の議を経て会長が委嘱する。

第22条 学会賞授賞候補者選考委員は授賞候補者選考委員会を組織し、学会賞授賞規定に従って、受賞者の選考を行なう。

第23条 学会賞授賞候補者選考委員は理事会の議を経て、会長が委嘱する。

第5章 学 会 誌

第24条 醗酵工学雑誌（以下学会誌という）には、醗

酵工学に関する報文を掲載するほか、本会記事、会務報告その他編集委員会が適当と認めた事項を掲載し、毎月1回これを発行する。

第25条 学会誌は理事会で定価を定めて販売することができる。

第26条 会費または購読料を滞納した会員には、学会誌の配布または送付を停止する。

第27条 学会誌の購読料は理事会で定める。

第6章 大会および特別講演会

第28条 この法人は毎年1回大会を開いて講演会を行なうほか、必要に応じて研究発表会および見学会を行なう。

第29条 この法人は理事会の議を経て特別講演会、醗酵学懇話会、その他を開催することができる。

第7章 支 部

第30条 この法人は支部内規に従って支部をおくことができる。

酸 酵 工 学 雑 誌 投 稿 規 約

(昭和50年1月1日改正)

1. 邦文論文の投稿は**本会々員に限る**(海外投稿者および英文論文にはこの制限を適用しない)が共同研究者および本会よりとくに依頼を受けた場合はこの限りではない。
2. 原稿の**種類**は 1) 原報文(完結した研究報告), 2) 速報(目下進行中の研究で重要な意義を含むもの), 3) ノート, 4) 綜説, 5) 資料とする。
3. 原稿は原々稿を含めて**2部**を提出する。副原稿は写真以外は良質な複写であれば Xerox 等の光学的複写でも良い。
4. 原報文, 速報およびノートは, 他誌に**未発表**のものであること。
5. 原稿は原則として**受理順**に掲載するが, 編集の都合上前後することがある。
6. 原稿の**取捨選択**および原稿中の字句の加除修正などは編集委員に一任すること。
7. 使用語は邦語のほか**英語**とする。
8. 邦文は横書とし, なるべく当用漢字, 現代かなづかいによること。
9. 邦文原報文は邦文本文のほかタイプ印字した**英文抄録**を添付すること。
英文抄録は刷り上がり1/2頁以内とするが, やむをえないときは1頁までを認める。
必要に応じて本文中の表, 図を指示し, 研究内容を簡潔に, しかも具体的に示すこと。英文拙劣なときは書き直しをもとめることがある。
英文報文には450字詰原稿用紙4枚以内の**和文抄録**を添付する。
10. 原報文の1回掲載文の長さは原則として表および図をふくめて刷り上がり7頁以内とする。制限頁数を超えたものについて1頁につき1,500円の超過料を著者負担とする。英文報文(速報およびノートを含む)では印刷面一頁あたり500円又は5米ドルを著者負担とする。超過料は科さない。
11. 速報およびノートは最優先に掲載される。速報では内容の重要性を認めさせるに必要な具体的な実験上の根拠をそなえるもので, 近く学術雑誌に原報文として投稿されるものであること。ノートはたとえば限られた部分の発見や意見, 提案など, 一つの報文にまとまらないものであっても, 報告する価値のあるものであること。
12. 速報およびノート1篇の長さは原則として表, 図および英文抄録(200語以内)も含めて4頁以内(本文字数として約6,500字)とする。英文速報およびノートも印刷面4頁以内とするが別に450字詰原稿用紙2枚までの和文抄録を添付する。
13. **綜説**は**醸酵工学**に関する全ての分野についての綜説及び特定の専攻論文が含まれる。資料は内容に著者の主観をはさまないものとする。統計的歴史的資料も含まれる。
14. **校正**は原則として著者に初校を依頼するが, すみやかに校正の上返送すること。著者校正は誤植の訂正のみにとどめ, 内容の変更は原則として認めないがやむを得ない場合は実費を申し受ける。
15. 別刷は校正時に注文を申し受ける。注文部数は50部単位, 費用の計算は別に定める算定表に示す。(下表参照) 本誌発行後の申し込みあるいは増減は受けない。

別 刷 料 金 表

頁	100部	150部	200部	300部	400部	500部	600部
1～4	3,600円	4,800円	6,000円	7,200円	8,400円	9,600円	10,800円
5～6	4,200	5,500	6,800	8,100	9,400	10,700	12,000
7～8	4,800	6,200	7,600	9,000	10,400	11,800	132,00
9～10	5,400	6,900	8,400	9,900	11,400	12,900	14,400
11～12	6,000	7,600	9,200	10,800	12,400	14,000	15,600

別刷は表紙付き。送料は実費を請求いたします。

酸 酵 工 学 雑 誌 投 稿 要 領

執筆にさきだって投稿規約投稿要領をよく読み、さらに最近の本誌印刷面を参考にして、版組み印刷が迅速正確にできるようにていねいにわかりやすい原稿をつくるように心がけてください。

I 原稿は次の要領、書式順序にしたがって書いて下さい。

1. 標題は意味のない語の使用をさけて具体的に記述すること。……に関する研究等の無意味な語は除く。
 - A. 英文標題中キャピタルで始まる語は名詞、代名詞、形容詞、副詞および動詞とし、その他は小文字とする。
 - B. 英文所属は full name とし外国郵便受信を考慮して、所在地の町、市、府、県名など必要最小限に入れる。
 - C. 標題、著者名、所属の記述方法は、例えば従来参考例に従えば

活性スラッジによる産業廃水の処理に関する研究
(第2報) 抗生物質廃水の処理について (その2)
秋川 春雄・小山 太郎*・西原 豊
東西大学工学部醸酵工学教室、*南北工業株式会社
Industrial Waste Treatment by Activated Sludge
(II) Treatment of Antibiotic Wastes (Part II)
Haruo Akikawa, *Taro Koyama and Yutaka Nishihara
Department of Fermentation Technology, Faculty of Engineering, Tozai University
Kitakawa-cho, Osaka; *Nanboku Kogyo Co. Ltd., Minami-cho, Akita
前記標題は改訂して
活性スラッジによる抗生物質醗酵廃液処理
Treatment of Waste Water by Activated Sludge in Antibiotic Fermentation
とする。

もし、研究系列を示す必要あるときは、脚注をつける。
活性スラッジによる産業廃水の処理に関する研究 (第2報の2)
Industrial Waste Treatment by Activated Sludge (II-2)
2. 英文原稿および邦文論文の英文抄録は厚手のタイプライター用紙 (A 4判又は8・1/2×11 インチ) に2段送りタイプ印字し、上下 (各4cm) 左右 (各3cm) の空白を残し片面に打つこと。
(邦文総説、資料の場合は英文標題は添付するが英文抄録は不要)
3. 邦文原稿は本学会規定の450字詰原稿用紙を使用する (請求により送付される)
 - A. 原報文内容はつぎの事項を遵守し簡潔に記載すること。
 - a) 緒論は研究の系譜と研究目的を明示し綜說的記述は避けること。
 - b) 実験方法および結果は簡単明瞭ようにまとめ、既発表の実験方法はその文献のみを示し、詳細は避けること。原則として同一実験結果は表、図のいずれか一方にとどめ、おのおの一連番号をつけ、その題名は表では上、図では下に、原則として英文で記載する。内容説明文は共に表、図の下に英文で記載する。
 - c) 考察は論旨の簡明を旨とし、著者の実験結果の意義の説明に限定し、論拠のない単なる仮説は避けること。
 - d) 要約は簡単明瞭ようにして十分具体的に示すこと。
 - B. 速報およびノートは本文 (原則として項目に分けない) 文献の順に記載し邦文論文では簡単な邦文要旨及び英文抄録を英文論文では英文抄録およびこれと独立の和文抄録をつける。
 - C. 総説および資料の本文記述は特にその形式を定めないが図表の製作配列、文献引用の方法は原報文と同一方法による。

x

4. 本文中の区分け, 表, 図および引用文献の記述は次の要領にしたがって下さい.

A. 本文の区分けはつぎの例に従って記号を用いて大見出し, 小見出しなどを明りょうにすること.

〔例〕

実 験 結 果

培養液中の諸酵素活性□□○○○ (二字空白)

1. アミラーゼ□○○○ (一字空白)

句読点, カッコ, ハイフンなど1コマに書き, 新しい行の初めは1コマあける.

脚注の符号は *, **, a), b), などを右肩につけ脚注の記述はその頁の下に横線を引きその下を書くこと.

B. 図および表の位置は印刷のつごうで原稿の中の指定位置と幾分異なることもあるので本文中では「つぎの表」のような表現を避け, Fig. 1 または Table 3 のように書くこと.

C. 引用文献には本文中の引用順序に著者名または事項の肩に^{1,2)}……の符号をつけ文末に番号順に列記する. 引用文献が2名までの共著の場合はその全員を本文中に示し, 3名以上の場合は例えば, 小川ら³⁾とする. ただし論文末の文献欄では全著者名を列記する. 各文献はつぎの例に示すように邦文雑誌名は日本化学総覧, 欧文雑誌名は Chemical Abstracts の省略による. なお醸酵工学雑誌(旧名醸造学雑誌)は醸工と書く. (醸酵工学雑誌, 英文誌を引用する場合は, *J. Ferment. Technol.* とする)

文献はつぎの順に記述する. (1) 番号, (2) family name ならびに first および middle name のイニシャル (邦人の場合は姓のみ), (3) 記載誌書名 (欧文ではイタリック), (4) 巻号または版の号, (5) 頁番号, (6) [編集成書の場合は] 出版所名, ならびにその出版地名, (7) 出版年号, () 内に入れる, (注) 同上, ibid など雑誌名書名を省略しない.

本誌・印刷面を参考にして, ・字体の指定など明確にすること.

原著として発表されていない学会報告, 私信などは本文中で“私信, private communication”として示す.

原著として受理されているものは“印刷中, in press”として文献の方に記載すること.

但し論文受理の決定されていないものは(未発表, unpublished 又は submitted for publication)として本文中に示す.

学会報告でも要旨集 (abstracts) 記録 (proceedings) の出版されているものについては原著論文としてあつかう.

〔例〕 1) 相田, 梶原, 朝井: 農化, 35, 292 (1961). [邦文雑誌の例]

2) Phillips, D. H., Johnson, M. J.: *Ind. Eng. Chem.*, 51, 83 (1959). [欧文雑誌の例]3) Vaughn, R. H.: *Industrial Fermentation*, (Underkofler, L. A., Hickey, R. J.), Vol. 11, 498, Chemical Publ., New York (1954). [編書の例]4) Prescott, S. C., Dunn, C. G.: *Industrial Microbiology*, 3rd. Ed., 533, McGraw-Hill Book Co. Inc., New York (1969). [成書の例]

5) 小野, 大田: 醸工, 印刷中.

6) 小川, 山田: 醸酵工学会大会要旨集 P. 306, (1972).

II. 使用文字, 字体, 記号略号は次の注意事項にしたがって下さい.

1. 文字の中で数字, ギリシャ文字, ローマ文字はすべて活字体で正確に記入する.

つぎの例のように紛らわしいものは特に注意し区別して書くこと.

〔例〕

(y, Y) (a, a, d) (γ, r) (δ, d) (μ, u, n, v) (v, v)

2. ギリシャ文字には「ギ」と赤書きするかまたはつぎの例のように発音を赤で記入すること. また例のように間違いやすい文字も発音を赤書きすること.

〔例〕

$$\begin{array}{cccccccc} \varepsilon & \xi & L & 1 & I & O & 0 & \lambda \\ \text{イプシロン} & \text{クサイ} & \text{エル} & \text{イチ} & \text{アイ} & \text{オー} & \text{ゼロ} & \text{ラムダ} \end{array}$$

3. Subscript, superscript などの字は小さくまちがいがやすいから、特に注意して書き、赤でその位置を明確に示すこと。
4. ゴチック体には _____ を、イタリック体には _____ の下線（赤色）をつける。
〔例〕 和 文 ゴチック：実験方法 → 実験方法
欧 文 イタリック：Asp. niger van Tieghem → *Asp. niger* van Tieghem
5. 邦文論文では元素は普通和名で書き学術用語は化学便覧（日本化学会編，丸善，1973）または学術用語集（化学編，南江堂）を基準とする。固有酵素名 化合物名は英文で記述する。但し慣用的に使用されているもの例えば糖化型アミラーゼ グルタミン酸等については和名を用いてもよい。動植物学名はイタリック体とする。
6. 量記号および符号は国際的に慣用されているものを用い、その最初の使用において正確な記述をカッコ内に示すか脚注又は論文最後にまとめて示す、但し通常慣用されるもので *p. xvi~xvii* に示す符号については説明を要しない。

量数を表わす記号は本文中ではイタリック指定をすること〔独立した式では印刷の場合イタリックに組まれる〕。

量単位は C. G. S. 単位を用い、やむを得ない場合で他の単位を使用する時は最初に換算比を示す、単位の書き方は次の例に従うこと略記単位には複数でも *s* をつけない。

〔例〕 長 さ : nm, μ m, mm, cm, m.

重 さ : μ g, mg, g, kg, t, m mole, p mole, n mole, μ mole

濃 度 : μ M, mM, M, N (規定)

面 積 : cm², m²

容 積 : μ l, ml, l, m³,

時 間 : sec, min, hr

温 度 : °K, °C

その他 % (パーセント), pH (水素イオン濃度指数). その他の略記号は *p. xvi~xvii* の別表にしたがう. mmHg, R_f

7. 数式のかきかたはつぎの方法による。

- A. 独立した式の文字は指定のない限りイタリックに組まれるから数学的記号などローマン体とすべきものは赤で囲むか、ローマンと指定し、一連番号を () で囲み頁の右端にリーダ (……) をつけて書く。
- B. 文中の式は一行になるように書く。

〔例〕

原稿文中の式 : $\boxed{d} \boxed{s} / \boxed{d} \boxed{t} = D(\boxed{S_0} - \boxed{S}) - (\boxed{X} / \boxed{Y}) [\boxed{\mu_m} \boxed{S} / (\boxed{K} + \boxed{S})] \dots\dots\dots (2)$

印刷本文の式 : $\frac{ds}{dt} = D(S_0 - S) - \frac{X}{Y} \frac{\mu_m S}{K + S} \dots\dots\dots (2)$

- C. 特殊字体、複雑な subscript はなるべく使用を避けること。

III. 図ならびに表の製作には特に次の事項に注意されたい。

1. 図ならびに表は本文とは別に、各葉の欄外に又は裏面に必ず著者名を記入すること。本文中にその挿入箇所を明記すること。
2. 図面の横巾は印刷面半裁の 6 cm, 全幅の 13 cm または頁全面に縮小されることを念頭に線の太さ字の大きさを決められたい。
3. 図はそのまま写真製版されるのでレタリングセット等を用いて書くことが望ましい。但し図中の文字の部

分の記入を編集部にかかせられる場合は製図のコピーに明瞭にイタリック等文字、記号の指定を記入して提出すること。

4. 顕微鏡写真等の縮小、拡大率を正確に示すべき図では必ず図中に標準尺度を示す線を記入する。×1,000等の方法で示さない。
5. 図中の測定点の印は ○, ●, □, ■, △, ▲ など明りょうなものを使用し、線は——, ———, ……などを用いるが必ず直線または雲形定規を用いて描くこと。
6. 図・表の実験説明文を同一用紙内に記入出来ない時は題名、説明文をタイプして添付する、この場合は一枚に一図（又は一表）をまとめる。図・表に説明文を糊付けすることはさける。
7. 図および表の実験説明は本文を見なくても大要が把握できる程度の最小限のものであることがのぞましい。
8. 表は肝要にして記述に値するデータのみを表とし、題名は上に説明文は下にタイプすること。
9. 表中のコラムの頭には適切な題をつけ適切な略字を用いて短くすること（一般常用略語は p. xvi~xvii 参照のこと。又これに含まれない略号符号を用いるときは適当な場所で必ずその意味を示すこと）。単位を明示すること。コラム、ラインに番号をつけることは本文引用に必要な場合をのぞき避けること。
10. 表の題名はその終りにピリオドを入れる。表の様式はつぎの例のように、左右開き、上下端に線を入れる。
〔例〕

Table 5. Growth inhibition of *E. coli* W by 2-methylphenylalanine and tyrosine.

DL-2-Methylphenylalanine ^a (mM)	L-Tyrosine ^a (mM)	
	0	0.05
Galvanometer readings		
0	66	66
0.2	66	65
0.6	66	36
2.0	66	7
6.0	66	4

a These compounds were added without heating to previously sterilized assay tubes.

IV. 発送にあたっては、共同研究者、指導者その他の人などに校閲を依頼し、正確な表現であるか、紛らわしい字句を用いていないかなど検討した上で送り状を添えて送付すること。送り状はつぎの各項を含むことが必要である。

- (1) 題 目〔標題〕
- (2) 所属機関、部局名
- (3) 機関所在地名
- (4) 連絡先（住所、氏名、電話）
- (5) 著者氏名
- (6) 種 別（報文、綜説、資料、速報、ノート、その他）
- (7) 本文枚数
- (8) 図面枚数
- (9) 表 枚 数
- (10) 英文抄録枚数（邦文抄録枚数）

INSTRUCTIONS TO AUTHOR FOR THE ENGLISH EDITION

GENERAL

1. *Policy* The Journal of Fermentation Technology is devoted to the advancement and dissemination of knowledge concerning fermentation technology, biochemical engineering, food technology, and microbiology. Research articles submitted must be reports of unpublished original research, which are not being considered for publication elsewhere.

2. *Types of paper* Three types of papers are accepted by the Editors:

Full papers: These should be written in the style described on pages xiv~xv, their length being the minimum required for precision in the description of the experiments and clarity in their interpretation. A concise well-written paper tends to be published more rapidly.

Short communications: Authors should submit papers for this category when they believe that rapid publication of their results is of the utmost importance. In addition, these papers may be short research reports which contain material of unusual interest but which are not yet ready to form the basis of a regular paper. Such communications must not exceed four printed pages including figure(s) and table(s). It need not have the more formal organization of a research article, but otherwise should follow the same basic concept of presentation. Short communications will be given top priority in publication scheduling.

Review: Reviews and monographs dealing with all aspects of fermentation technology will be accepted. Authoritative and critical reviews of the current state of knowledge are preferred. It is permissible to describe the content in any form, but the tables, figures and manner of citations should conform to the guidelines for full papers.

3. *Authorship* Membership in the Society of Fermentation Technology is not a prerequisite for consideration of research articles.

4. *Mailing instructions* Papers offered for publication should be sent to:

The Society of Fermentation Technology
Business Office
Faculty of Engineering
Osaka University
Yamadakami, Suita-shi
Osaka 565
Japan

5. *Editorial review and revision* All papers will be critically read by at least one reviewer who is selected for his competence in the subject matter of the paper. Acceptance of the paper will depend upon scientific merit and suitability for the Journal. A paper may be accepted in its original form or accepted subject to revision. The reviewer's (and editor's) suggestions will be conveyed to the author without identifying the reviewer, and the author will have an opportunity for revision. If a manuscript returned to an author for revision is held longer than three months, or if revision is sufficiently extensive, the date of receipt of the revised manuscript will be substituted for the original date of receipt.

6. *Page charges* Page charges are ¥500 for authors who reside in Japan and \$5 for authors outside Japan, per printed page. (Page charge for authors outside Japan include the extra amount of \$3 to cover postage for editorial work.) However, if no funds are available to the author, the cost of publication will be borne by the Society of Fermentation Technology, Japan.

7. *Proofs* The authors will be expected to pay the cost of any considerable changes made by them in proof, apart from the correction of printers' errors.

8. *Reprints* Reprints should be ordered at the time corrected galley proofs are returned to the Editor, on an order blank furnished for that purpose.

FORM OF MANUSCRIPT

1. *Typescripts* Each paper must be submitted in two typewritten copies, including the original, with wide margins and double-spacing throughout, including footnote, tables, legends, and references. Good quality, full-weight paper, approximately $8\frac{1}{2} \times 11$ inches should be used. Papers that are mimeographed, dittoed, or typed on tissue paper will be returned for retyping. Good quality Xerox or similar photocopies are acceptable. Typescripts should bear the name and address of the person to whom the proof of the paper is to be sent.

2. *Style* The authors should present their material with utmost conciseness, under adequately classified headings such as: Abstract; Introduction; Materials and Methods; Results; Discussion; Acknowledgments; and References. These should be preceded by the title of the article, the author's name(s), Institution(s), and a brief running head. All tables and figures should be numbered consecutively using Arabic numerals. Their approximate positions should be indicated in the margin of the typescript.

Titles should be concise and informative. The organism used should ordinarily be identified in the title. It should be borne in mind that scientific information services may index only the key words that appear in the title.

Abstract should not ordinarily exceed 5 percent of the length of the paper, and should not repeat information already present in the title. It should be suitable for use directly by Biological Abstracts and by Chemical Abstracts.

Tables should be typewritten separately from the text, using double-spacing. Each table should include a title, and must be arranged to conform to journal page size ($5\frac{1}{2}'' \times 8''$). Vertical rulings in tables are not acceptable.

Drawing Material for figures should ordinarily be original drawings. However, glossy photographs of line drawings are usually satisfactory. For graphs, India ink may be used on coordinate paper ruled with light blue lines. Letters or numbers produced by a lettering device, or sheets of printed letters and numbers of suitable size are preferred to typewritten symbols or letters on figures or graphs. Complex chemical structural formulae and other sketches or complex charts made on typewritten pages cannot be accepted unless provided in a form suitable for engraving. It is preferable to treat such an illustration or chart as a numbered figure because it may not be feasible to include it on the printed page exactly at the place referred to in the text. Reviewing of the manuscript is facilitated if photographic copies of the figures are included.

Photographs submitted for reproduction should be glossy prints with sharp details. All unnecessary parts should be trimmed away. Photographs that are to be grouped should be trimmed square and fitted together without space between them.

Illustrations Whenever possible, illustrations should be in the form of drawings made with a pen and undiluted India ink for reproduction by means of zinc etchings. Complex mathematical formulae should be submitted in the form of reproducible photographs. If a formula is received in typewritten form, the author must assume responsibility for its accuracy, including differentiation between letters and number where misinterpretations might be made (as with the typed letter l and number 1, or the letter O and the number 0). This can be accomplished by means of pencilled marginal notations.

Dimensions are preferably expressed in the metric system: If any other system is to be used for any reason, the metric equivalent must be supplied in parentheses.

Abbreviations and symbols All abbreviations and symbols (except the common abbrevi-

ations and symbols listed on pages xvi~xvii) should be identified the first time they are used in the paper.

References These should be given in the text thus:.....has been reported.¹⁾;.....have been studied by Osborne and Ferry.^{2,3)};..... have been studied by several workers.^{4~7)} When a paper to be cited has more than two authors, citations in the text should appear thus:.....was reported by Osborne *et al.*⁸⁾ At the end of the paper references should be given in order of their appearance in the text. The entire list must be typed double-spaced. Use only initials of first and middle names and always place them after the last name. Do not use *et al.* in the reference list. Order of listing shall be as follows: number of citation; author(s); bibliographic reference; year, thus:

1) Phillips, D. H., Johnson, H. J.: *Ind. Eng. Chem.*, **51**, 83 (1959). Titles of Journals should be abbreviated in accordance with the system used in the *World List of Scientific Periodicals* 4th ed., Butterworth's Scientific Publications, London (1963~65). References to books and monographs should include the place of publication and the name of the publisher, as well as the date of publication and the number of the edition to which reference is made, such as:

2) Vaughn, R. H.: *Industrial Fermentation* (Underkofler, L. A., Hickey, R. J.), Vol. 2, 498, Chemical Publ., New York (1954). References to papers that have been presented at scientific meetings but not published should indicate the year of presentation, such as:

3) Ogawa, F., Yamada, K.: (Abstr.) *Annual Meeting of Ferment. Technol., Japan*, p. 38, (1969). Similarly, references to papers accepted for publication but not yet published should show the Journal name, and, if known, the probable year of publication and state "in press". If possible, avoid references to papers that have been submitted for publication but not (yet) accepted. If reference is made to such a paper, it should be listed as "submitted for publication". If the papers so cited are the author's the author should advise the scientific Editor of any change in the status of his referenced paper during the time his new paper is being processed. Private communications should be cited only in the text.

Before preparing papers, authors should consult a current issue of the Journal to make themselves familiar with the general format, such as the use of crossheadings, lay-out of tables, and citation of references. The need for revision of badly prepared typescripts or diagrams will delay publication.

Abbreviations commonly used in the Journal of Fermentation Technology

A	ampere	DEAE-	diethyl-aminoethyl (cellulose)
Å	angstrom unit	(cellulose)	
Ac*	acetyl (CH_3CO , not CH_3COO)	deriv.*	derivative
ADP	adenosine 5'-diphosphate	diam.*	diameter
alc.*	alcohol	dil.*	dilute
alk.*	alkaline (not alkali)	dissoc.*	dissociate
AMP	adenosine 5'-monophosphate	DNA	deoxyribonucleic acid
atm	atmosphere (the unit)	DNase	deoxyribonuclease
ATP	adenosine 5'-triphosphate	d.p.*	degree of polymerization
ATPase	adenosinetriphosphatase	dpm	decomposition per minute
av.*	average	elec.*	electric, electrical(ly)
BOD	biological oxygen demand	emf.*	electromotive force
b.p.	boiling point	emu	electromagnetic unit
Btu	British thermal unit	EPR	electron paramagnetic
Bu*	butyl (normal)		resonance
c-	centi- (as a prefix, e.g., cm)	equil.*	equilibrium(s)
cal	calorie	equiv*	equivalent (the unit)
calc.*	calculate	ESR	electron spin resonance
calcd.*	calculated	est.*	estimate
CD	circular dichroism	estd.*	estimated
CDP	cytidine 5'-diphosphate	Et*	ethyl
Ci	curie	evap.*	evaporate
CM-	carboxymethyl cellulose	expt.*	experiment
cellulose		ext.*	extract
CMP	cytidine 5'-monophosphate	FAD	flavine adenine dinucleotide
CoA	coenzyme A	FMN	flavine mononucleotide
COD	chemical oxygen demand	f.p.	freezing point
coeff.*	coefficient	g	gram
compd.*	compound	<i>g</i>	gravitation constant
conc.*	concentrate	GDP	guanosine 5'-diphosphate
const.*	constant	GMP	guanosine 5'-monophosphate
cor.*	corrected	GTP	guanosine 5'-triphosphate
CP*	chemically pure	hr	hour
cpm	counts per minute	ID	infective dose
crit.*	critical	IDP	inosine 5'-diphosphate
cryst.*	crystalline (not crystallize)	IMP	inosine 5'-monophosphate
CTP	cytidine 5'-triphosphate	inorg.*	inorganic
d.*	density	insol.*	insoluble

ir*	infrared	ppb	parts per billion
ITP	inosine 5'-monophosphate	ppm	parts per million
k-	kilo- (as a prefix, e.g., kg)	ppt.*	precipitate
l	liter (ml, kl and the others should be written in Roman letter)	Pr*	propyl (normal)
LD	lethal dose	<i>prim</i>	primary
liq.*	liquid	R	roentgen
lx*	lux	ref.*	reference
m-	milli- (as a prefix, e.g., mm)	rem	roentgen equivalent man
m	meter	rep	roentgen equivalent physical
M	molar	RNA	ribonucleic acid
max.*	maximum	mRNA	messenger-RNA
Me*	methyl (not metal)	rRNA	ribosomal-RNA
min	minute(s) (time)	tRNA	transfer-RNA
min.*	minimum(s)	RNase	ribonuclease
mixt.*	mixture	rpm	revolutions per minute
m.p.	melting point	RQ	respiratory quotient
MW	molecular weight	sat.*	saturate
μ	micron: also micro- (as a prefix, e.g., μ l)	sec	second(s) (time unit only)
n-	nano- (10^{-9})	<i>sec</i>	secondary
N	normal (as applied to concen- tration)	soln.*	solution
NAD	nicotinamide adenine dinucle- otide (DPN)	sp. gr.	specific gravity
NADH	reduced NAD	St	stokes
NADP	nicotinamide adenine dinucle- otide phosphate (TPN)	std.*	standard
NADPH	reduced NADP	t	ton
NMN	nicotinamide mononucleotide	TEAE-	triethylamino-ethyl (cellulose) (cellulose)
NMR	nuclear magnetic resonance	temp.*	temperature
no.*	number	<i>tert</i>	tertiary
obsd.*	observed	TDP	thymidine 5'-diphosphate
OD	optical density	TMP	thymidine 5'-monophosphate
Ω	ohm	TTP	thymidine 5'-triphosphate
org.*	organic	UDP	uridine 5'-diphosphate
p	poise	UMP	uridine 5'-monophosphate
p-	pico (10^{-12})	UTP	uridine 5'-triphosphate
Ph*	phenyl	uv*	ultraviolet
		V	volt
		vol*	volume (not volatile)
		vvm	volumes per volume per minute
		W	watt
		wt*	weight

* These abbreviations may be used only in tables and figures.

会 報

昭和49年度日本醸酵工学会大会

昭和49年度日本醸酵工学会大会は、11月20日から22日までの3日間にわたり、日本生命中之島研修所（大阪市北区常安町29）において開催された。会場は第1会場（講堂）、第2会場（ホール）、第3会場（E教室）、第4会場（第2教室）の4会場にわかれ148演題の発表が行なわれた。すなわち醸造、廃液処理、非炭水化物、醸酵生理、生産、酵素、組織培養、殺菌、生物化学工学、微生物、遺伝の一般講演と酒造用原料米およびその処理、廃液処理、二次代謝物質の生産、醸酵装置とその制御ならびにプロセスの最適化、微生物生態系、醸酵動力学、Basidiomycetesの培養の各シンポジウムならびに石油醸酵研究会との共催による石油醸酵講演会を行ない熱心な討論が行われた。

大会第2日目は、授賞式ならびに受賞講演が行なわれた。まず蔭山授賞選考委員より江田賞の原昌道氏に

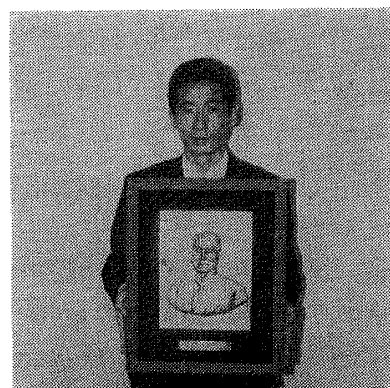
ついて、原田授賞選考委員より堀田国元氏について、小林授賞選考委員より藤尾雄策氏および新名惇彦氏について選考経過および業績について報告があり、照井会長から受賞者にそれぞれ賞牌、副賞（金一封）が贈呈された。

受賞講演は、江田賞「Deferriferriochrome 非生産性を主にした清酒麹菌有用変異株の開発」、斎藤賞「*Rhizopus* 属と細菌の連関作用によるフマル酸醸酵からの転換醸酵」、学会賞「*Aerobacter aerogenes* によるイソアミラーゼの生産」および「糸状菌の酵素生産の動力学的および生理学的研究」のそれぞれが発表された。

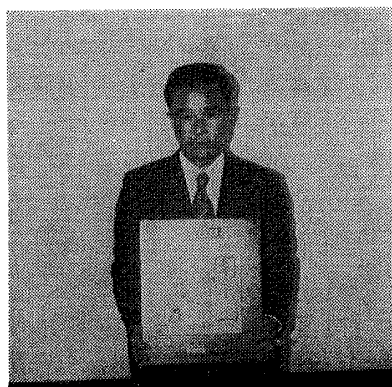
なお、同日午後5時30分から、市内北区にある中華料理「北京」において130余名参加の懇親会が盛大に催された。



江田賞受賞者 原 昌道氏



斎藤賞受賞者 堀田 国元氏



学会賞受賞者 藤尾 雄策氏



学会賞受賞者 新名 惇彦氏

昭和49年度 第2回理事会議事録

- 1 日 時 昭和49年11月20日 午後4時～午後6時
- 2 場 所 レストランパレス（大阪市北区梅田町8番地）
- 3 出席者 （会長）照井 堯造 （副会長）*合葉 修一 （副会長）芝崎 勲
江夏 敏郎, 富金原 孝, 福井 三郎, 原田 篤也, 市川 邦介, 上久保 正, 栗山 一秀,
*楠本 四郎, 緒方 浩一, 岡田 弘輔, 大嶋 泰治, 田口 久治, 高橋 穰二, 高原 義昌,
高尾 彰一, 武田 六郎, 上田誠之助, *印委任状
- 4 議事の経過および結果
会務報告 下記の事項について担当理事から報告があり, これを承認した.
イ. 庶務関係 田口理事より本年度上半期における事業, 総会, 理事会, 評議員会等の開催状況および会員の動向について報告があった.
ロ. 経理関係 芝崎理事より本年度上半期の収支ならびに下半期の見透しについて報告があった.
ハ. 編集関係 江夏理事より本年度上半期における原稿の受付, 掲載状況および投稿数と掲載数等について報告があった.
協議事項
イ. 次期評議員候補者推薦委員会に関する件: 細則第8条第2項にもとづいて協議した結果, 福井氏, 緒方氏, 田口氏の三理事に一任すること
を決定した.
ロ. 会誌購読料改正に関する件: 印刷費, 送料および編集費等の高騰にもとづいて, 会誌1冊650円(英, 和文誌共)にすることを決定した.(Vol. 53 No. 1 から実施)
ハ. 新入会員の承認に関する件: 入会申込書にもとづいて, 正会員52名学生会員22名団体会員7社および賛助会員1社(1口)の入会を承認した.
ニ. その他
a) 基礎生物化学工学講習会(仮称)を化学工学協会関西支部と共催することを決めた.
b) (株)中外広業社より広告料金の減額申入れを検討した結果, 本学会は積極的に広告勧誘を行ない, 減額分を補うということで申入れを認めた.

昭和49年度 第2回評議員会議事録

- 1 日 時 昭和49年11月21日 12時～13時
- 2 場 所 日本生命中之島研修所（大阪市北区常安町29）
- 3 出席者 本人出席 31名
委 任 状 13名
- 4 議事の経過および結果
中浜敏雄氏を議長に選出し議事に入る.
会務報告 下記の事項について担当理事から報告があり, これを承認した.
イ. 庶務関係 田口理事より本年度上半期における事業経過ならびに総会, 理事会, 評議員会等の開催状況および会員の動向について報告があった.
ロ. 経理関係 芝崎理事より本年度上半期の収支ならびに下半期の見透しについて報告があった.
ハ. 編集関係 江夏理事より本年度上半期における原稿の受付, 掲載状況および投稿数と掲載数等について報告があった.
ニ. その他 理事会で決定された事項について報告した.
a) 新入会員の承認(正会員52, 学生会員22, 団体会員7社, 賛助会員1社1口)
b) 購読料の改正(昭和50年1月号より英・和文誌共650円)
c) 基礎生物化学工学講習会(仮称)を化学工学協会関西支部と共催すること.
d) (株)中外広業社より広告料金の減額申入れにともない, 本学会でも広告業務を行なうこと.

協議事項

次期理事候補者推薦委員会に関する件

細則第8条第3項にもとづいて協議した結果、中

浜敏雄氏、黒岩芳朗氏、尾崎浅一郎氏の3名に一任することを決定した。

昭和49年度 第1回編集委員会議事録

- 1 日 時 昭和49年11月20日 12時～13時
- 2 場 所 日本生命中島研修所（大阪市北区常安町29）
- 3 出席者 本人出席 14名
委任状 9名

4 議事の経過および結果

照井会長が議長となり議事に入る。

編集報告

江夏理事より昭和49年度上半期の原稿受付状況、月別受付原稿、月別掲載状況および投稿数と掲載数について報告がありこれを承認した。

協議事項

イ. 投稿要領の改訂に関する件

- a) 引用文献の著者名を記述する場合は、2名までの共著ではその全員を本文に示し、3名以上の場合は例えば小川ら³⁾とする。ただし論文末の文献欄では全著者名を列記する。

(投稿要領 4-C)

- b) 図面の横幅は印刷面半裁の6cm、全幅の

13cm または 20cm の3種のサイズで印刷されることを念頭に線の太さ、字の大きさを決められたい。(投稿要領 III-2)

- c) 図はそのまま写真印刷されるのでレタリングセット等を用いて書くことが望ましい。但し図中の文字の部分の記入を編集部にかせられる場合は製図のコピーに明りょうにイタリック等文字、記号の指定を記入して提出すること。(投稿要領 III-3)

- d) 別刷料金を従来料金の20%アップにすることを決定した。

ロ. 編集方針について

綜説著者候補について編集委員から推薦してもらうことを申合わせた。

次期理事候補者推薦委員会 議事録

1. 日 時 昭和49年12月6日（金）午後2時30分～午後4時30分
2. 場 所 レストランパレス（大阪市北区梅田8番地）
3. 出席者 茂木正利、中浜敏雄、田辺 脩、辰巳忠次、千畑一郎、山本武彦、安井之雄
委任状 本多久吉、蔭山公雄、小林達吉、黒岩芳朗、村上英也、尾崎浅一郎

4. 議事の経過および結果

中浜敏雄氏を議長に選出し議事に入る

細則第8条第3項により次期会長、副会長、理事および監事の候補者について審議した結果下記のごとく推薦することを決定した

会 長 照 井 堯 造（前阪大工）
副会長 福 井 三 郎（京大工）
副会長 高 橋 雅 弘（味の素）
理 事 江 夏 敏 郎（阪大工）
栗 山 一 秀（大倉酒造）

藪 田 泰 治（東大農）
村 上 英 也（醸 試）
能 美 良 作（広大工）
岡 田 弘 輔（阪大工）
大 嶋 泰 治（阪大工）
妹 尾 四 郎（サントリー）
田 口 久 治（阪大工）
高 橋 甫（東北大農）
高 橋 穰 二（東教大農）
高 原 義 昌（微工研）

武 田 六 郎 (武田薬品)
高 尾 彰 一 (北大農)
枋 倉 辰六郎 (京大農)
上 田 誠之助 (九大農)

山 本 武 彦 (大市大理)
監 事 芝 崎 勲 (阪大工)
竹 村 成 三 (白鶴酒造)

次期評議員候補者推薦委員会 議事録

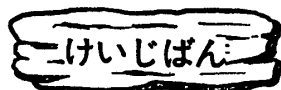
1. 日 時 昭和49年12月19日 午後2時30分～午後4時30分
2. 場 所 レストランパレス (大阪市北区梅田8番地)
3. 出席者 富金原孝, 福井三郎, 市川邦介, 岡田弘輔, 田口久治, 上田誠之助
委任状 原田篤也, 上久保正, 緒方浩一, 高橋穰二

4. 議事の経過および結果

福井三郎氏を議長に選出し議事に入る
細則第8条第2項により次期評議員候補者について
審議した結果下記のごとく推薦することを決定した

阿 部 重 雄 (京府大農)
天 羽 幹 夫 (朝日麦酒)
千 畑 一 郎 (田辺製薬)
福 本 寿一郎 (前大市大理)
橋 田 度 (不二製油)
本 莊 太 彦 (塩野義製薬)
市 野 一 磨 (松蔭短大)
岩 本 博 道 (微工研)
角 田 太一郎 (大阪国税局)
川 野 義 男 (磐田化学)
小 林 達 吉 (東教大農)
草 井 清 (長瀬産業)
松 尾 義 之 (広大工)
茂 木 正 利 (野田産研)
中 川 赴 (明治製菓)
緒 方 浩 一 (京大農)
清 水 祥 一 (名大農)
辰 巳 忠 次 (前大府大農)
辻 阪 好 夫 (大阪市工研)
山 田 浩 一 (サッポロビール)
合 葉 修 一 (阪大工)
有 馬 啓 (東大農)
海老根 英 雄 (農林省食研)
原 田 篤 也 (阪大産研)
桧 作 進 (鹿大農)
市 川 邦 介 (阪大工)
飯 田 茂 次 (合同酒精)
加賀美 元 男 (山梨大工)

上久保 正 (京大農)
北 原 覚 雄 (東京農大)
古 賀 正 三 (東大応微研)
間 瀬 泰 男 (三 共)
三 浦 喜 温 (阪大薬)
森 太 郎 (菊正宗)
中 野 剛 (藤沢薬品)
尾 崎 浅一郎 (三楽オーシャン)
園 欣 弥 (神鋼ファウドラー)
外 山 信 男 (宮大農)
上 田 清 基 (東教大農)
安 井 之 雄 (キューピー醸造)
赤 木 盛 郎 (三重大農)
白 戸 紋 平 (名大工)
富金原 孝 (丸菱理化)
長谷川 武 治 (発 研)
本 多 久 吉 (サングレーン)
本 江 元 吉 (九大農)
今 井 和 民 (岡大農)
蔭 山 公 雄 (山邑酒造)
金 子 安 之 (名大農)
小 林 秀 彦 (旭化成)
黒 岩 芳 朗 (キリンビール)
松 田 哲 郎 (東洋醸造)
三 輪 万 治 (東洋紡)
村 尾 沢 夫 (大府大農)
中 浜 敏 雄 (前京府大農)
鮫 島 広 年 (協和醸酵)
田 辺 脩 (宝酒造)
角 田 俊 直 (味の素)
梅 津 雅 裕 (鳥取大工)
吉 田 文 武 (京大工)



化学工学協会第40年会

日時 昭和50年4月2日(水)～4日(金)

会場 名古屋大学工学部

詳細 化学工学 38 10月号

研究の工業化に関する講演会 '75 (第11回)

主催 化学工学協会関東支部

日時 50年1月30日(木) 10.00～16.30

会場 私学会館(千代田区九段北4-2-25)

詳細 化学工学 38 11月号

「初歩化学工学Ⅱ」講習会

主催 化学工学協会関西支部

日時 [後期] 3月17日(月)～20日(木)

テーマ 化学工学の基礎・反応工学

プロセスの設計と操作・装置材料および構造設計

会場 大阪科学技術センター

詳細 化学工学 38 11月号

日本化学会第32春季年会研究発表会

期日 昭和50年4月1日(火)～4月4日(金)

会場 明治大学駿河台校舎

(千代田区神田駿河台1-1)

科学技術館(千代田区北の丸公園2-1)

詳細 化学と工業 27 10月号

問合わせ先 101 千代田区神田駿河台1-5

(社) 日本化学会 第32春季年会係

第3回酵素類似機能をもつ有機化学反応の研究會

共催 日本化学会・日本薬学会・日本農芸化学会各
関東支部

日時 3月31日(月)

会場 東京工業大学中棟 527 講義室

趣旨 本研究会は酵素モデル反応を中心に Bioorganic Chemistry の研究とその成果の有機化学への応用という目的で、各分野の研究者が広い視野に立って討論し、この新しい境界領域の研究を進展させようとするものです。

詳細 化学と工業 27 11月号

連絡先 376 桐生市天神町1-5-1

群馬大学工学部応用化学科 太垣和一郎

日本農芸化学会昭和50年度大会

日時 7月23日(水)～7月25日(金)

会場 北海道大学教養部(札幌市)

昭和50年度通常総会および授賞式、受賞講演は4月1日(火)

東京都千代田区国立教育会館で開催

第23回醗酵装置懇談会

主催 日本醗酵工学会支那

日時 2月28日(金) 13.00～16.30

会場 家の光会館

詳細 本号色ページ。

日本薬学会第95年会

日時 4月4日(金)～6日(日)

会場 武庫川女子大学 西宮市民会館

連絡先 606 京都市左京区吉田下阿達町

京都大学薬学部内 日本薬学会第95年会組織

委員会 TEL. 075-771-2914

日本植物生理学会1975年度年会および第16回シンポジウム

日時 4月3日(木)～5日(土)

会場 理化学研究所(和光市広沢2-1)

申込み先 113 文京区弥生2-4-16 日本学会事務セ

ンター 日本植物生理学会年会および第16回

シンポジウム準備委員会事務局

TEL. 03-815-1903

第10回国際栄養学会議

The 10th International Congress of Nutrition

期日 1975年8月3日～9日

会場 国立京都国際会館

組織委員長 満田久輝

テーマ I 基礎的諸問題 II 栄養生理 III 栄養不良

IV 臨床栄養 V 栄養と食糧生産 VI 集団栄養

VII 社会生態学ならびに公衆衛生よりみた栄養

問題

参加費 85米ドル 1975年6月30日締切り

連絡先 606 左京区宝池 国立京都国際会館内

第10回国際栄養学会議事務局

TEL. 075-791-3111 内線 2422・2822

第25回純正・応用化学会議

The 25th International Congress of Pure and Applied Chemistry The 25th IUPAC Congress

期日 1975年7月6日～11日

場所 イスラエル エルサレム

特別講演 A Molecular Approach to the Etiology of Human Cancer Dr. S. Spiegelman

招待講演 30題

一般講演締切 1975年2月1日

参加費 120米ドル

問合せ先 The Organizing Committee, XXV th IUPAC Congress P.O. Box 983, Jerusalem, Israel

The 9th World Petroleum Congress

期日 1975年5月11日～16日

会場 帝国ホテル

連絡先 世界石油会議日本国内委員会事務局
千代田区神田1-6-10 笠原ビル8階

TEL. 294-3104

International Congress of Scientists on the Human Environment

期日 1975年11月16日～26日 (予定)

会場 日本学術会議場

国立京都国際会議場

連絡先 日本学術会議事務局 港区六本木7-22-34

TEL. 403-6291

第5回国際酸酵会議

**Fifth International Fermentation Symposium
1976**

期日 1976年6月28日～7月3日

会場 Berlin Congress Hall

詳細 本誌巻末 First Circular 抜萃

第5回アジア太平洋雑草学会議

**The 5th Asian-Pacific Weed Science Society
Conference**

期日 1975年10月5日～11日

会場 日本学術会議場 (予定)

連絡先 千葉市弥生町1-33 千葉大学理学部植物生

態学研究室 沼田真 TEL. 0472-51-1111

Journal of Fermentation Technology

醗酵工学雑誌

Volume 53, 1975

社団法人 日本醗酵工学会

The Society of Fermentation Technology, Japan

JOURNAL OF FERMENTATION TECHNOLOGY

(HAKKO KOGAKU ZASSHI)

EDITORIAL BOARD

Chairman: Gyozo TERUI

Kei ARIMA
Takeji HASEGAWA
Shozo KOGA
Hideya MURAKAMI
Hirosuke OKADA
Isao SHIBASAKI
Masahiro TAKAHASHI
Kiyomoto UEDA

Saburo FUKUI
Motokichi HONGO
Hiroshi MATSUMOTO
Ryosaku NOMI
Yoshiro OKAMI
Hisaharu TAGUCHI
Tatsurokuro TOCHIKURA
Takehiko YAMAMOTO

Tokuya HARADA
Kunisuke ICHIKAWA
Yasuji MINODA
Koichi OGATA
Yasuji OSHIMA
Joji TAKAHASHI
Kenzo TONOMURA
Fumitake YOSHIDA

Advisory Council

C.G. HEDEN
A.E. HUMPHREY
S.J. PIRT

A.L. DEMAINE
Kakuo KITAHARA
Chuji TATSUMI

H. DELLWEG
Kazuo OKUNUKI
Koichi YAMADA

Associate Editor

Yasuji OSHIMA
Shinichi KINOSHITA

Shiro NAGAI
Atsuhiko SHINMYO

Yoshiki TANI

The Society of Fermentation Technology, Japan

Faculty of Engineering, Osaka University

Yamada Kami, Suita-shi

Osaka, Japan